

2018年4月27日
東日本旅客鉄道株式会社

2018年度設備投資計画について

このたび、2018年度の設備投資計画を策定しましたので、お知らせいたします。

「安全・安定輸送のレベルアップ」、「収益力向上への挑戦」、「TICKET TO TOMORROWの推進」の3つの課題を実現するため、さらなる安全設備整備の強化に取り組むとともに、お客さま満足の向上、将来の成長のための設備投資を着実かつ機動的に進めてまいります。

設備投資額は、連結では2017年度実績比約940億円増の6,450億円、単体では2017年度実績比約720億円増の5,250億円を計画しています。

○主な設備投資の内容

- 駅ホームの安全性向上に向けホームドア整備を進め、京浜東北線では有楽町駅・秋葉原駅・御徒町駅等、総武快速線では新小岩駅において使用開始します。
- 大規模地震対策や踏切事故対策等の安全対策を着実に進めるとともに、老朽設備の更新や首都圏における電気設備の強化等の安定輸送対策も確実に実施していきます。
- お客さまに安心してご利用いただくため、車内防犯カメラの設置、駅・車両留置箇所・線路沿線・電気関係設備のセキュリティ強化等の対策を継続して推進します。
- お客さまにより快適に鉄道をご利用いただくために、新幹線および中央線特急の車内に無料公衆無線LAN設備を順次整備します。また、すべてのお客さまによりわかりやすく安心して鉄道をご利用いただくために、駅ナンバリングの導入を引き続き進めます。
- E7系新幹線車両を上越新幹線に順次投入するほか、E235系車両の山手線への投入、E353系特急車両の中央線への投入を引き続き進めます。また、モノレール車両の新造も行います。

- 東日本大震災による被災線区の復旧に引き続き取り組みます。常磐線の不通区間については、2019年度末までの運転再開に向けた工事を引き続き実施します。
- 千葉駅の「ペリエ千葉」グランドオープン（2018年6月）のほか、品川駅、渋谷駅、横浜駅、東京駅、新宿駅等の大規模ターミナル駅開発、「竹芝ウォーターフロント開発」、「川崎駅西口開発」等の大規模複合型まちづくり計画を進めます。
- 「ホテルメッツ秋葉原（仮称）」、「五反田駅東口ビル（仮称）」のほか、中央線三鷹～立川間の高架下空間を活用した「中央ラインモール」の開発、子育て支援施設の展開、駅ビル・エキナカ店舗のリニューアル等を推進し、沿線価値の向上をめざします。
- 「ノーザンステーションゲート秋田（アリーナ計画）」「札幌ホテル（仮称）」等、地方中核都市の活性化や事業エリアの拡大を進めます。

○設備投資額

2018年度 設備投資額(連結)

(単位:億円)

	2018年度計画	2017年度実績	2016年度実績	2015年度実績
運輸事業※	4,800	4,244	3,831	3,922
非運輸事業※	1,650	1,260	1,235	1,497
合計	6,450	5,504	5,067	5,419

※2016年度以前の実績値は、旧セグメントによる運輸業・非運輸業の設備投資額を記載しています。

2018年度 設備投資額(単体)

(単位:億円)

	2018年度計画	2017年度実績	2016年度実績	2015年度実績
合計	5,250	4,528	4,265	4,422

2018年度 グループ設備投資計画概要(主な件名)

安全・安定輸送のレベルアップ

「究極の安全」に向けて

- ・大規模地震対策
高架橋、盛土・切取、レンガアーチ、駅舎等の耐震補強
電車線支持物(電化柱)耐震補強
- ・踏切安全対策
- ・ホーム安全設備整備
ホームドア、内方線付き点状ブロック、非常停止ボタン

- ・ATS-P整備
- ・研修センター・訓練センター設備整備
- ・乗務員訓練用シミュレーター整備
- ・研修センター整備
[JR新潟鉄道サービス(株)、JR東日本ビルテック(株)等]

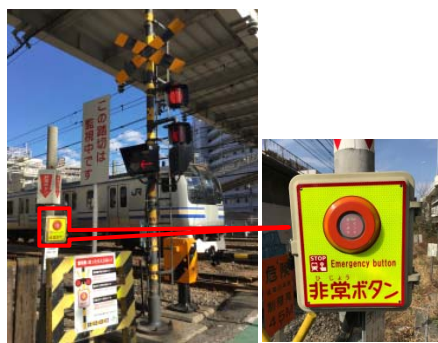
サービス品質の改革

- ・エレベーター等整備
- ・駅待合室整備
- ・駅舎橋上化・自由通路整備
- ・駅トイレ整備
- ・JR東日本アプリのコンテンツの拡充
- ・駅案内整備
- ・バス車両新造[ジェイアールバス関東(株)]
- ・モノレール車両新造[東京モノレール(株)]



ホームドア(スマートホームドア®)

※「スマートホームドア®」は、JR東日本メカトロニクス(株)の登録商標です。



踏切安全対策



盛土耐震補強



高架橋耐震補強



JR東日本アプリ



エレベーター



駅トイレ



駅舎橋上化(羽越本線中条駅)



建物設備訓練技術センター(仮称)
[JR東日本ビルテック(株)]



乗務員訓練用シミュレーター



モノレール車両
[東京モノレール(株)]

収益力向上への挑戦

輸送ネットワークによる交流拡大

- ・中央線E353系車両の投入
- ・相鉄・JR直通線の開業に向けた準備

駅を中心とした「付加価値」向上

- ・品川新駅(仮称)の工事の推進
- ・大規模ターミナル駅開発
品川、渋谷、横浜、東京、新宿 等
- ・竹芝ウォーターフロント開発
- ・ノーザンステーションゲート秋田(アリーナ計画)
- ・駅ビル・エキナカ店舗等のリニューアル推進[グループ各社]
- ・札幌ホテル(仮称)
- ・川崎駅西口開発
- ・ホテルメッツ秋葉原(仮称)
- ・五反田駅東口ビル(仮称)

インバウンド戦略の推進

- ・訪日旅行センター整備
- ・駅ナンバリング整備
- ・新幹線等車内無料公衆無線LAN整備



E353系車両



駅ナンバリング



品川新駅(仮称)



訪日旅行センター



ノーザンステーションゲート秋田
(アリーナ計画)



竹芝ウォーターフロント開発



大規模ターミナル駅開発(横浜)



札幌ホテル(仮称)

「TICKET TO TOMORROW」の推進

地方創生

- ・震災復興

技術革新・環境戦略の推進

- ・線路設備モニタリング
- ・エコステモデル駅

人を伸ばす企業風土づくり

- ・現場第一線における技術開発
- ・女性社員設備整備

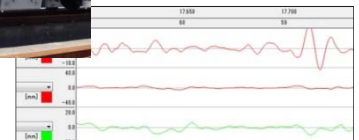


震災復興(常磐線)



(車載装置)

(モニタリング結果イメージ)



線路設備モニタリング

※斜字はグループ会社の設備投資件名